

## 令和3年度 第2回美術館セミナーの報告

1 日時 令和3年8月6日(金)13:30~16:00

2 場所 茨城県近代美術館 地階講堂および展示室

3 参加者 135名(来館49名、オンライン86名)

県内外の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員と教育関係者

### 4 活動内容

13:00~13:30 受付

13:30~13:45 美術館と学校との連携事業の紹介

13:45~15:00 美術教育講演会「大人も受けてみたい美術の授業！自分だけの視点を手に入れるアート思考」

15:00~16:00 演習「鑑賞ワークショップ」

#### (1) コロナ禍での実施の工夫

今回のセミナーでは、Web会議システム(Zoom)により講師は講堂のスクリーン上に登壇し、講演会とリモート鑑賞ワークショップの演習を行った。また、受講者の参加方法も来館とYouTubeライブ配信を併用し、参加方法を選べるようにした。

#### (2) 感染症対策

会期直前に県独自の緊急事態宣言が発令された影響で、市町村の夏季研修会の出張が中止になったため、来館での参加者が減ったが、オンラインによる参加に変更して参加してもらうことができた。また、オンラインでは県外の教育関係の参加者にも参加してもらうことができた。

当初演習は、展示室で参加者同士の対話によるペアワークやグループワークを計画していた。しかし、感染症拡大防止の対策をより入念にするために、ペアワークやグループワークを中止して、講堂で、講師と参加者との対話による全体での意見共有のみに変更した。演習の効果をより高めるための工夫として、演習で使用する作品を5点に限定して、参加者が他者と自分との意見の共通点や相違点を実感しやすいようにした。

#### (3) 内容と成果

美術教育講演会では、自分だけの問いや答えを創り出す力が重要であること、またその力を美術の授業で身に着けるための方法と指導のポイントを実践例をもとに紹介していただいた。

演習では、はじめに展示室で各自作品鑑賞し、ワークシートに自分の気付きや考えを記入しながら、「自分なりのタイトルを作品につける」という活動をした。その後講堂に戻り、スクリーンに映し出された作品の画像を見ながら、講師との対話により意見共有が行われた。意見共有により、同じ作品を鑑賞した参加者でも違った視点や感じ方があることが実感できた。

参加者の感想には「体験を交えたことで、講演の内容がさらに理解が深まった」「オンラインにより、感染症が拡大する中でも安心して参加することができた」「オンラインでも画面の講師の姿や資料が見やすく、距離が非常に近く感じた」といったものがあった。



美術講演会の様子



展示室での鑑賞ワークショップの様子